

東白石通信

東白石まちづくり実践会
とんぱくニュース
札幌市白石区本通13丁目南10-1
東白石まちづくりセンター内
TEL.861-9262 FAX.861-4369

年頭に当たって

東白石地区町内会連合会 会長 山中 忠典



皆様、新年明けましておめでとうございます。東白石地区の皆様方におかれましては、輝かしい新年を迎えられ、今年こそは良い年にしようと思っていることと存じます。

過去4年間コロナ禍のため、多くの事業が軒並み中止となってしまいました。そのような状況でも、東白石地区町内会連合会の中で、まちづくり実践会・東白石地区福祉のまち推進センターが知恵をしばって、高齢者や子どもたちに楽しんでもらおうと、いろいろとイベントを実施いたしました。昨年、コロナが5類になり、なんとか持ちなおせたと思っております。町連の活動が普通に出来ることが、こんなに嬉しい事だとは思っていませんでした。事業を行うたびにこみあげてくる喜びを、今でもはっきり覚えております。

今年も、地域の皆様といっしょになって、町連の事業を考え、活動を推し進めていきたいと考えております。皆様のご協力をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。

皆様におかれては一つ年齢が増えました。どうかご自分の体にあった動き方をして、健康で楽しく、無理のない活動をしていただきたいものと思っております。そして、協力し合って、楽しい町連を作り上げていきませんか。

結びになりますが、皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

避難所運営訓練を実施して

南郷小学校 校長 関根 治彦



「みんなで暮らしていくためには、それぐらいは我慢してもらわなければ」

7月26日、南郷小学校において避難所運営訓練が実施されました。地域関係者、区役所担当者及び学校関係者の約30名が参加しました。その訓練の中でHUG(避難所運営ゲーム)という図上訓練を行いました。HUGは様々な出来事や問題を解決しながら進めるのですが、避難所に避難してくる様々な方の思いや要求に、どのように対応していくかを考えるのがHUGの醍醐味です。上記の発言は、そんなHUGのねらいとはちょっと離れています。

話は変わりますが、「白石ってどんなところ？」と聞かれたら、私は「交通の便が良くて新しいビルが立つなどの近代的な街だけれども、いい意味で古い街」と答えています。この4月に校長として赴任した時は、地域で学校を支える仕組みが整えられているなという印象を持っていました。半年たった今ではそれが学校だけでなく、すべての人や物事に至るまで行われ、地域コミュニティや人のつながりがしっかりとしている街という印象になっています。街が整備されて大都会になれば希薄になってしまうものが残っている、そんな温かな街です。

そういう意味で上記の発言を捉えなおしてみると、この白石ならではの「共助」がしっかりと根付いているからこそこの発言であったことがわかります。もしもの時も、白石のよさを生かして乗り切っていけるのではないかと再認識することのできた避難所運営訓練でした。

第8回 東白石ふれあいまつり

東白石地区町内会連合会 総務部長 柳本 稔榮

4年間続いていた恒例の「東白石ふれあいまつり」が、コロナ禍の3年を経て10月29日(日)午後1時から東白石会館にて開催されました。開催にあたりましては、このふれあいまつりが当地域の皆さんが日ごろから鍛え、温めてきた腕自慢、のど自慢、等を自薦・他薦で応募され、披露していただく場と考えました。当日は、大正琴の演奏に始まり、東白石小学校合唱団による合唱、ハワイアンダンス、日本舞踊、カラオケ、オカリナ演奏、和太鼓演奏、南京玉すだれ、手品の披露といった9種類の演目に、8つの団体やグループを含む60名以上の方々から30もの出し物を熱演されました。また喫茶コーナーや主に町連女性部のメンバーが制作した焼物の展示コーナーも設けられました。今回のふれあいまつりには100名以上の方々が登場されましたが、そのほとんどが出演者とその家族や関係者で、一般の方の来場が少なかつたようで、事前のPRが足りなかつたことが次回への反省点の一つでした。関係していただいた皆様、大変お疲れ様でした。



大正琴の演奏

久々のふれあい入浴ツアー

東白石地区福祉のまち推進センター 委員長 多田 慶一

まだまだマスク生活の中ではありますが、例年好評の「ふれあい入浴ツアー」を何とか実施と考えました。感染予防を充分考え案内を出す決断をしました。運転手不足でつきさむ温泉の大型バスはなくなっていました。長年付き合っている温泉側も趣旨を理解いただき、マイクロバス1台での2か所ピストン送迎となりました。いつも通りのおいしい料理、そして風呂上がりのビール!! 絶え間なく続いたカラオケ・ビンゴ大会、笑顔がいっぱい広がりました。

家に閉じこもり認知症や転倒事故、精神的不安等が多く報告されている中、外に出て皆と顔を合わせ談笑する機会を作ることが今「福まち」として、また地域全体として、多くの目で見守り活動を広げていくことが目標です。一つずつ行事が楽しく無事終わっていている事、関係機関の方々のご協力に感謝でいっぱいです。見守りが大きな輪になっていくことを願って、今後も福まち一同で楽しみながら活動をとるところです。今後とも、尚一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



健康チェックもしました

「森にまなぶ」の再開

東白石地区青少年育成委員会 会長 中嶋 亮子

世の中の例にもれずコロナでここ3年間、何もできない状況が続きました。令和5年にコロナが5類になり、思い切って「森にまなぶ」の再開を決め募集案内を出しました。

いつもならすぐに多くの申し込みがあるのに今回は全く無く、3年間のプランクを痛感しました。時代も大きく変わってきています。

そんな中、嬉しい事にご数年で新しい委員が増えてきて、その中から斬新な「ネット申し込み」「QRコード」が若い世代にいいのではとの声。急遽翌日実施したところ何とすぐに反応がありました。少人数ではありましたが、参加申し込みをした子供たちの気持ちを重視し、実行しました。青空の下、徐々にキャンプ場に子供たちの元気な声が響き渡りました。

これからは、従前にとらわれずどんどん新しい考えで前に進む楽しい企画を取り入れ、以前のように元気で自由に遊んでほしい。そのために私たち育成委員は自分たちも楽しみながら活動を続けていきたいと、改めて考える機会をこの3年で与えられたと思います。

今後も地域関係者の方々の変わらない温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



自然いっぱい元気いっぱい

満66年を迎えて現状と課題

長栄町内会 会長 北口 正幸

昭和32年9月にうぶ声を上げて以来今年で満66年になりました。現在の町内会加入数は約460世帯となっております。現在の町内活動は、①いつも明るく住みよい町内会、②安全で安心な町内会、そして③絆を深め、仲良く暮らすことが出来る町内会の実現を目指して、役員一同が事業の実施に取り組んでおります。

春には町内一斉清掃に始まり、夏には拍子木を鳴らした夜間安心安全パトロール・さわやかラジオ体操・ゴミステーションパトロール、秋には日帰り親睦旅行・防災訓練・町内会講座、そして新年会や高齢者への声かけ訪問など多数の事業を実施しております。

街並みも、高齢化が進み戸建住宅の減少に伴い賃貸マンション等が増加しております。そのため行事に参加が出来ない会員も増加しております。そして「いざ」という時の情報も行動も備えも取れないのが現状です。また役員の高齢化に伴い絶えず役員不足の状態になっており活動に支障をきたしております。

課題としては、会員の高齢化対策、未加入世帯の加入促進、災害備蓄整備、役員確保など。これらの課題解決には、ITなども活用し日頃において会員の皆様に町内会の活動をご理解頂き、そしてご要望・ご意見を聴かせて頂くことが最も大事だと思います。



ラジオ体操の風景

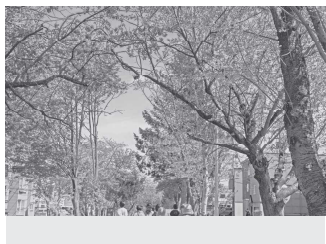
誰もが参加できるイベント開催を目指して！

栄通東町内会 会長 天野 克彦

町内会活動の問題点は、「町内会構成員の拡大停滞」と「役員の高齢化」でしょう。役員は完全な無償ボランティアであるに関わらず、その活動には相当な時間と労力を必要とします。そのためもあり、役員のなり手がなく、仕方なく長く役員をやってきた高齢者に頼っています。その改善策として、町内の戸建て居住世帯の4～5倍にもなる集合住宅居住世帯へのアプローチが重要となります。

そこで多数の町内イベント開催を考えました。集合住宅に居住されている方は回覧板が施設玄関に掲示されるだけで目を通すことは少ないですが、町内の公園や広場通路で多数の人たちが集まっていればイヤでも目に付きます。「あれ、何のイベントなんだろう？」と興味を持ってもらえればいいのです。

令和5年には新たなイベントとして「町内遠足」を実施しました。桜満開のサイクリングロードを歩き、昼食にはビール園という内容でしたが、子供連れのファミリーも含め30数名の参加がありました。この先もしっかりと楽しいイベント開催を継続していきます。



桜を見ながら遠足

白石警察署より感謝状が授与されました

東白石まちづくり実践会 会長 山中 忠典



防犯功労者表彰

東白石まちづくり実践会では、「地域安心安全ステーション整備事業」の一環として、東白石安心安全パトロール隊を作り、徒歩パトロールと車による青色灯パトロールを実施しております。この事業は平成19年4月に発足し4月から11月まで毎月2回ずつ実施しております。早いもので17年間続けてまいりました。私たちの地域にはアレフの教団施設もあり、気の緩ませられないパトロールを行っております。

お陰様で、令和5年10月11日に行われた交通安全総決起集会において、長年の努力が認められ、白石警察署長より感謝状をいただきました。

アレフ(オウム真理教の後継団体)の現状

東白石地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会 事務局長 辻 直則

平成28年7月に札幌白石施設が出来、7年が経過しました。この間アレフは「団体規制法」に基づく「観察処分」を受けており来年1月に期限を迎えます。先般、この延長のため皆さんに署名をお願いし、10月13日に法務大臣あてに提出致しました。この観察処分には3か月ごとの公安調査庁への報告が求められていますが、これを怠ったため令和5年3月に「再発防止処分」を受けております。この再発防止処分は施設の使用禁止・お布施等の受領の禁止で期間は6か月(現在延長となり令和6年3月まで)となっております。施設への出入りには目を光らせて下さい。現在のアレフは15都道府県下30施設、信者1,650人、資産約2,600万円とのこと。平成28年の頃は12億～13億円の資産があったのですが、どこへ行ったのでしょうか。地下鉄サリン事件の被害者に渡るべきお金でした。時間稼ぎをし、資産隠しを行ったとは思えません。報告を出さないなどアレフは公安調査庁に対して抵抗している様に思います。オウム真理教が攻撃的になって沢山の事件を起こしていた時を思い出します。私たちには、現在のところ監視することしかできませんが、沢山の目で変化を察知したいと思いますので、これからも宜しくお願いいたします。



アレフ施設全景

地域避難所の運営について

東白石地区町内会連合会 防火防災部長 媚山 一夫

地震・風水害・火山噴火など列島各地で自然災害が多発、2018年9月6日、直下型の胆振東部地震は北海道初の震度7を記録、札幌市でも震度6弱、白石区でも震度5強と災害の恐怖と2日間のブラックアウトとなり、(SNSで大地震が来る、断水・携帯不通等)デマが拡散しました。

私が所属する「みつば自主防災会」では「地域避難所」に指定済みのみつば会館で「宿泊体験型の防災訓練」を9月21日から実施し「特に災害の想定はせず、どこの避難所に行っても適用出来る過ごし方」の経験を積み、初日は停電を想定し消灯、ランタンを8か所に設置しました。ダンボールベッドの組み立ては出来なかったものの、アルファ化米の食べ方を学び、調理担当者の方々による豚汁に舌鼓を打ち薄暗い中で3町内会の親近感が一気に深まりました。

札幌市直下型地震は冬の場合、最悪5千人弱が死亡し、うち4千人は倒壊建造物に閉じ込められ凍死と札幌市は想定しております。地震や火事、大雨など災害発生の際に学校等を「基幹避難所」とし、それを補完する必要がある場合に「地域避難所」が開設されます。年に数回にわたり東白石地区では「避難所開設訓練」を実施しており、災害時の避難所運営能力の向上を目指しています。東白石会館が地域避難所になった場合は地域住民(避難者・町内会等)や、まちづくりセンター所長が協力して運営しますが、現在は、マニュアルがないので、東白石地区町連で、避難所運営マニュアルを作成しています。

その中で、初期期の対応として①施設の開設、②避難所の安全点検、③施設の開設準備、④施設の開設、⑤避難者受け入れ、⑥滞在スペース以外の部屋の設置、⑦避難所状況の記録、⑧避難所名簿の更新・管理、⑨負傷者等の対応、⑩要配慮者等への対応、⑪ペット同行避難者の対応、⑫備蓄物資等の搬入・配布、⑬食料の配給、⑭衛生管理、⑮避難者への情報提供、⑯寒さ対策、⑰停電対策等を定める予定です。

災害は何時やって来るかわからず、タンスなど大型家具の置き場所や直ぐに持ち運べる小物や薬等をまとめてしておく等、日常の対策を痛感しております。



東白石地区防災訓練(HUG)

編集後記

未曾有な困難を皆様の叡智をもって乗り越え、前を向いて動き出した一年(令和5年)でした。その様子を東白石通信第28号でお伝えできることができて、嬉しく思います。まだ心配なこともあります。東白石の地域の皆様にとってますます住みよい地域でありますようにと願いを込めてお届けいたします。